

2024年度 慶應義塾大学 一般選抜  
文学部 外国語（フランス語） 解答例

それぞれの設問について、出題の意図は以下の通りである。

I 平易なフランス語の物語文を速読し、内容を十分に把握した上で適切に要約する能力を問う設問である。語彙、表現ともに難解な箇所はなく、テキスト理解の鍵となる単語には語注がついている。知らない単語や表現に出会った場合には、前後の文脈や全体の流れなどを考慮して、想像力を働かせて意味を予想することが求められている。

II 本テキストは演出家・哲学者である著者が「演劇の限界」について論じたエッセーの冒頭部分である。やや難解な内容ではあるが、訳を求められている下線部においては、複数の対立表現に注目すれば、演劇と映画という二つのジャンルの違いが述べられていることは明確である。「映画」が言い換えられている表現に気付くことも重要である。

III 知的エッセーを仏訳する問題。まずは日本語のテキストを十分に咀嚼し、適切なフランス語に置き換える能力を問う設問である。的確なフランス語表現が思いつかなくても、できるだけ自然なフランス語の表現に近づくよう工夫する努力が求められている。

以上